
母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会

2025 年度研究大会 参加申込方法・プログラムのご案内

母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会では、来る 2025 年 8 月 15 日 (金) から同 16 日 (土) までの 2 日間に 2025 年度研究大会 (オンライン) を開催します。

今年度の大会テーマは「トランスランゲージング・クラスルーム:理論から実践へ」です。

多文化多言語の子どもたちが、自らの文化的・言語的資源を自由に活用し、安心して学べる環境を実現するためには、子どもの側に適応を求めるのではなく、教育の仕組みや社会の側が変わる必要があります。本大会では、「トランスランゲージング」の視点から、そのような環境をいかに構築できるのかを理論と実践の両面から検討し、公正で包摂的な教育のあり方を問い直します (※トランスランゲージングとは、複数言語を固定的に分けず、複数言語使用者が自身が持つ全ての言語レパートリーを場に応じて柔軟に使用することを指します)。

基調講演 (8 月 15 日) には「トランスランゲージング教育論」の提唱者である Ofelia García 博士をお招きし、世界的に展開されている最新の理論的議論とその教育的インパクトについてご講演いただきます。企画趣旨やプログラム詳細、参加申込み方法は以下をご覧ください。関心をお持ちの多くの方のご参加をお待ちしております。

MHB 学会 2025 年度大会実行委員会 taikai2025@mhb.jp

記

《トランスランゲージング・クラスルーム:理論から実践へ》

日時: 2025 年 8 月 15 日 (金) ~ 16 日 (土) (UTC+9)

形態: オンライン (Zoom)

参加費: MHB 学会員 3,000 円、非会員 4,000 円

* 年会費納付済み会員は [専用サイト](#) にあるクーポン (1,000 円割引) をご利用ください。

* 入会希望者は <https://mhb.jp/admission> をご覧の上、お手続きください。

参加申込みサイト: <https://mhb2025.peatix.com/>

(2025 年 8 月 8 日まで申し込み可)

《 プログラム 》

＊以下、すべて日本時間 (UTC+9) による記載です。[プログラム詳細版はこちら](#)からダウンロードしてください。

8 月 15 日 (金)

10:00～12:00 【会員発表①】

13:00～15:00 大会実行委員企画: 講演&パネルセッション

「トランスランゲージング再考—概念的多様性とその射程—」

【講演】

加納 なおみ氏 (國學院大學)

トランスランゲージング教育論 —過去、現在、そして未来—

【パネルセッション】

櫻井 千穂氏 (大阪大学)・

教室から始まる静かなる革命

—トランスランゲージングと国内 CLD 児の学びの可能性—

三輪 聖氏 (チュービンゲン大学)

教室における生徒の〈声〉の解放とウェルビーイング

—海外の継承日本語クラスにおけるトランスランゲージングの可能性—

佐野 愛子氏 (立命館大学)

トランスランゲージング教育論における教師のスタンスとデザイナーバイリンガルろう教育からの示唆—

指定討論 友沢 昭江氏 (桃山学院大学)

15:15～15:45 総会

16:00～17:45

国内 CLD 児 SIG 主催 実践/研究の語り場 Part II (会員・準会員のみ、別途申し込み必要)

21:00～23:00 基調講演

Ofelia García 博士

言語の脱植民地化とトランスランゲージング教育論: その目的と方法

Decolonizing Language and Translanguaging Pedagogies: The Why and How

[詳細はこちら](#) ※日英同時通訳あり

8 月 16 日 (土)

10:00～12:00 研究方法 WS 小澤伊久美氏 (国際基督教大学)

はじめての複線径路等至性アプローチ (TEA)—複線径路等至性モデリング (TEM) を中心に

13:00～15:00 【会員発表②】

15:00～17:00 【会員発表③】

《 問い合わせ先 》

MHB 学会 2025 年度大会実行委員会 taikai2025@mhb.jp